OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	ポストコロニアル・フォーメーションズ XI　はじめに
Author(s)	木村, 茂雄
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2016, 2015, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57319
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

はじめに

１．『ポストコロニアル・フォーメーションズ XI』の刊行に際して

この報告書は、大阪大学大学院言語文化研究科主催の「言語文化共同研究プロジェクト」の一環として、この 10 年あまり進めてきた共同研究「ポストコロニアル・フォーメーションズ（PCF）」の 2015 年度の報告書である。この共同研究のシリーズとしては 11 巻目になる。ポストコロニアル・フォーメーションズは、言語文化研究科の教員、院生、博士申請資格者を「正規」のメンバーとする研究会により進められているが、それはさらに、1996 年に活動を開始したカルチュラル・スタディーズの研究会「カルチュラル・スタディーズ・サークル（CSC）」を前身としている。それも含めるなら、現時点でちょうど 20 年の歴史をもつことになる。その間、これらの研究会のメンバーが中心になり、『ポストコロニアル文学の現在』（2004 年、晃洋書房）や『英語文学の越境――ポストコロニアル/カルチュラル・スタディーズの視点から』（2010 年、英宝者）などの書物も出版してきた。

以上のような背景から、PCF の研究会には、言語文化研究科を修了し大学の教職についているものなど、「非正規」のメンバーも数多く参加しているが、これらの仲間を抜きにしてこの研究会は成立し得ない。毎年のことながら、この報告書は最初に、これらの研究仲間に送り届けたいと思う。

２．2015 年度の PCF の活動

PCF の研究会は、ほぼ月 1 回のペースで土曜日の午後に開いている。基本的には研究書や論文の批評会というかたちを取り、担当者がその内容を紹介・検討した後、全体討論に入る。このようにして、先行研究の趣旨や意義、欠点や盲点などを議論していく。それはまた、私たち自身の批評意識や批評の言葉を鍛えていくプロセスでもある。

2015 年度は 9 回の研究会を開催した。最初の 4 回は 2014 年度からの継続で、ガヤトリ・スピヴァク（Gayatri Chakravorty Spivak）の *An Aesthetic Education in the Era of Globalization* (Harvard University Press, 2012) を読み進めた。この大著を読了した後、グローバリゼーションと暴力や「テロリズム」との関係を扱った、アルジュン・アパデュライ（Arjun Appadurai）の *Fear of Small Numbers: An Essay on the Geography of Anger* (Duke University Press, 2006) の検討に移り、その読了後の 8 回目と 9 回目には、「世界社会フォーラム」を扱った論文と、ホーミ・K・バーバのスチュアート・ホール論を取り上げた。

以下にその記録を残しておきたい。開催目、章・論文のタイトル、担当者の順に示す。

1．2015 年 4 月 25 日（Spivak, *An Aesthetic Education*）
Chapter 15 “Ethics and Politics in Tagore, Coetzee, and Certain Scenes of Teaching”　村上八重子
Chapter 25 “Tracing the Skin of Day”　稲垣健志
2．2015 年 5 月 30 日（Spivak, *An Aesthetic Education*）
Chapter 10 “Echo”　歳岡冴香
Chapter 14 “Resident Alien”　松本承子
3．2015 年 6 月 27 日（Spivak, *An Aesthetic Education*）
Chapter 16 “Imperative to Re-imagine the Planet”　花井晶子
Chapter 20 “Scattered Speculations on the Subaltern and the Popular”　杉浦清文
4．2015 年 7 月 25 日（Spivak, *An Aesthetic Education*）
Chapter 7 “Acting Bits/Identity Talk”　木村茂雄・舞さつき
Chapter 18 “Terror: A Speech after 9/11”　松本ユキ
5．2015 年 9 月 26 日（Appadurai, *Fear of Small Numbers*）
“Preface” and Chapter1 “From Ethnocide to Ideocide”　加瀬佳代子
Chapter 2 “The Civilization of Clashes”　伊勢芳夫
6．2015 年 10 月 31 日（Appadurai, *Fear of Small Numbers*）
Chapter 3 “Globalization and Violence”　舞さつき
Chapter 4 “Fear of Small Numbers”（前半）　村上八重子
7．2015 年 12 月 12 日（Appadurai, *Fear of Small Numbers*）
Chapter 4 “Fear of Small Numbers”（後半）　歳岡冴香
Chapter 5 “Our Terrorists, Ourselves”　小杉世
8．2016 年 1 月 30 日（Appadurai, *Fear of Small Numbers*/ “World Social Forums”）
Chapter 6 “Grassroots Globalization in the Era of Ideocide”　霜鳥慶邦
Jackie Smith et al., “Globalization and the Emergence of the World Social Forums,” Manfred B. Steger ed., *The Global Studies Reader Second Edition* (Oxford UP, 2015)　森野豊
9．2016 年 3 月 12 日（Homi K. Bhabha）
Homi K. Bhabha, “The Beginning of Their Real Enunciation: Stuart Hall and the Work of Culture,” *Critical Inquiry* 42:1 (Autumn 2015)　稲垣健志・木村茂雄

2016 年度の PCF も、アパデュライの近著 *The Future as Cultural Fact: Essays on the Global Condition* (Verso, 2013) を材料に開始されている。いましばらく、ポストコロニアル性とグローバル性の関係という問題がメインテーマになりそうである。

木 村　茂 雄